

ラブホテル

ラブホテルとは、主にカップルの性行為に適した設備を持つ部屋を、短時間(休憩)もしくは宿泊で利用できる施設。業界では露骨な表現を避けるため「ファッションホテル」、「ブティックホテル」とも言う。また一部業界誌では「レジャーホテル」や「リゾートホテル」と表現することもある。一般には、略して「ラブホ」や「デートホテル」、また俗に「Hホテル」などともいう。近年若者の間では検索サイトの名称から「ハッピーホテル」や略して「ハッピーにいこう」という言い方で使われることも多い。日本国や韓国特有のホテルで、法律上の立地規制などから同業のホテルが密集して営業している事が多い。

歴史

起源は、江戸時代の出会茶屋にまで遡る事が出来ると言われる。第2次世界大戦前には「待合」「赤線地帯」がその機能を果たしていた。第2次世界大戦後には「連れ込み宿」(連れ込み旅館)が多く登場し、東京では千駄ヶ谷がメッカであった。1960年代後半から増え始めた回転ベッドを含めた豪華な設備の目黒エンペラー(目黒川沿いに存在し、現在は「ホテル目黒エンペラー」と改名)が1980年代に有名となる。なお、現在はこのような形態でラブホテルを新規開業する事はほぼ不可能なため、ビジネスホテルで申請し、認可が下りた後に小規模な改装をして営業をしている所がほとんどで、これらは風適法にて届け出されている正規のラブホテルと分けて偽装ラブホテル(類似ラブホテル)と言われている。そのため外観的に一般のホテルと大差ないラブホテルが増えてきている。

かつての、いわゆる連れ込み宿(連れ込み旅館)時代は、女中がお茶を持ってきたが、現在のラブホテルでは受付 - 会計も自動精算機の導入で店員と顔を合わせずに出入り出来るようになっていることがほとんど。ただし、一時期ラブホテルにおける殺人事件が多発したため、警察の指導により防犯ビデオが設置されている事が多い。これは顧客名簿に記入しない事に対する代替処置である。18歳未満は入店禁止であるため、18歳以下の子連れや家族利用はあり得ない。ラブホテルと思われる施設で子連れや家族利用を可としている所は偽装ラブホテルである可能性が高い。

特徴

- ホテルの外観はネオンサインなどで派手にしたものが多く、ロマンチックなホテル名が多い。
- 予約が出来るラブホテルは少なく、多くのラブホテルは建物や駐車場の入り口付近に部屋の空き状況を示す「満」「空」の表示があり、これを見て利用する。
- 客が入るところを他人に見られるのを防ぐため、建物の入り口付近の照明は暗く、その正面には壁や植木などで目隠しされている。

- ・ロビーに部屋を選ぶ写真パネルがあることが多い(この方式の発祥は「ホテル野猿」)。空いている部屋の写真は点灯して明るくなっており、部屋を決めるボタンを押すと部屋までの誘導サインが点灯し、それに従って入室する。
- ・フロント周辺は、他の利用者及び従業員と顔を合わせない様に配慮されている場合が多い。
- ・人と対面せずに精算ができるように自動精算機が設置されている。
- ・全ての部屋が「ダブル」(ダブルベッドが一つ)であり、いわゆる「シングル」(シングル用ベッドが一つ)や「ツイン」(シングル用ベッドが二つ)の部屋はない。「ダブル」の部屋でも、3人で利用できる場合が多いが、その場合追加料金が必要となる事がある。
- ・1人でのチェックインは断られることもある。その場合デリバリーヘルスと呼ぶ際は入室前の待ち合わせが必要となる。
- ・チェックインする時間帯によっては、宿泊せずチェックアウトする事(休憩)が出来る。
- ・入口に「休憩〇〇円、宿泊〇〇円」と表示された看板がある。金・土曜・祝前日などの休憩は通常1~3時間単位、宿泊は23時~24時以降と遅いのが一般的である。平日昼間は「サービスタイム」「フリータイム」などとして、7~17時、13~20時などと長時間休憩出来る事が多く、宿泊が可能になる時刻は20~22時以降が多い。また、連休中やクリスマス、年末年始などは特別料金となるところが多い。
- ・枕元には様々な機能の操作パネルが設置されており、照明やBGM、エアコンなどがベッドに寝ながらコントロールできるようになっている。
- ・コンドームが枕もとに1個用意されているところが多い(不足する場合、サイズ不適合の場合は室内の自販機などで購入する)。
- ・テレビのアダルト専門チャンネルを無料で見る事ができる。(一般のホテルでは通常有料)
- ・部屋に設置されているソファの多くはビニール張りかレザー張りである。これはバスルームから上がった際に、身体が完全に乾いていない状態で座ることを想定しているためである。

問題点

- ・ホテルの経営者又は利用者により設置された隠しカメラで他人の性行為の映像が、アダルトビデオ作品となり市場に出回ることがある。ものによっては編集がなされていない場合もあり、個人間で交わされたプライベートな会話(つまり個人情報)が流出していることがある(例として、路上等違法販売されているアダルトビデオなど)。
- ・旅館業法では宿泊者名簿の設置を義務づけているが、ラブホテルではほとんど記入する人がいない。また、領収書もほとんどの場合出さない・客も受け取らないため、宿泊者数を実際の宿泊者数より少なく税務署に申告する経営者が多く、脱税の温床になっていると言われている。
- ・ラブホテルの経営が禁止されている区域において、いわゆる旅館として届け出を行い、あるいは既存の施設や設備を改修・改築・増築する等して、営業する「偽装ラブホテル(類似ラブホテル)」が社会問題となっている。